



辻田 満

第8回目となる連載コラムは第4話シリーズにわたって「スクエアダンサーの道德教育」について書きます。第1話では「序文」です。

1. はじめに

「スクエアダンサーの道德教育」とは何なのでしょう？今更、いい大人が「道德教育」の話など聞いて何になるのかとお思いになっている方が多数いらっしゃると思います。皆さんは「道德教育」に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか？

「修身」という言葉をお聞きしたことがあるかと思いますが、修身は、第二次世界大戦前の日本の小学校における科目の一つでした。1890年（明治23年）の教育勅語発布から、1945年（昭和20年）の敗戦まで存在しました。戦後、GHQは修身を軍国主義教育と見なし修身教育を停止させましたが、再び1958年「修身」は「道德教育」として理性ある社会人を育てる「道德」として復活したのです。

「道德」とは何なのでしょう？「道德」とは一言で説明すると善いことと悪いことを区別する方法を言います。一言で「善いことと悪いことを区別する方法」と言ってもその道德の目的を知らなければ道德的判断はできません。ここまで話を進めると納得のいく説明は「哲学」の領域まで踏み込まなければ万人が納得できる説明は難しくとても私が皆さんに説明できる範疇を大きく超えてしまいます。

さて、ここで「スクエアダンサーの道德教育」を取り上げた目的を明確にしておきたいと思えます。一言で説明すると「スクエアダンスは動作の技術的な踊り方にさえ優れていれば楽

しめる安易なレクリエーションではないことを知らなくてはならないからです。スクエアダンスは他のレクリエーションとは比べものにならない程スクエアダンサーとしての人格が問われるレクリエーション」なのです。

実際にあった某クラブのことです。スクエアダンスを始めたばかりの新人会員にクラブ運営に関わる役割をお願いすると直ぐにクラブをやめてしまったとの事です。理由は「クラブ運営に関わる役割など面倒なことはやりたくない近隣に一回300円を支払うと踊らせてくれるクラブがあるのでそこに行きます」と言う事でした。しばらくは外部のパーティー等でその方はスクエアダンスを踊っている姿を見かけましたがその後姿を見かけることが無くなり消息をお聞きしましたら既にスクエアダンスをお止めになったとのことです。

また、どこのクラブにもあると思いますが趣味のクラブと言う認識の甘さでマナーやルールに対してルーズに身勝手な行動をしている方はいつしかクラブ内にご自分の居場所がなくなってクラブを辞めざるを得ない状態になってしまい退会する方がいます。そして、そのような方はどのクラブでも受け入れて貰うことはできません。

更に、先日S協で各クラブの「高齢者対応」についてアンケート調査をした際の回答の中に

「初心者講習会は年齢制限をすべきである」とか「自分の年齢を考えるとスクエアダンスを楽しむ時間を初心者講習会に奪われたくない」との意見を平然と書かれていることには驚くばかりでした。とくに初心者講習会などに時間を取られたりクラブ内で面倒な時間を取られたくないかたはクラブを退会してS協の「フリー会員」として踊りたい時に踊りたいパーティーに出かけて行って楽しんでいる方が実際におられます。S協の中でも「フリー会員」の是非は論議の対象になっています。そもそも「フリー会員」とはお仕事の関係やご家庭の事情で一定時期一つのクラブに所属し活動が難しい方の救済措置として設けたルールでしたがい

つしかその趣旨とは異なる方々が「フリー会員」となっていることは事実であるかと思えます。

さて、本シリーズは皆さんと共にスクエアダンサーとしてどのような人格形成をしていくべきかを考えてみたいとおみます。

(次号に続く)

第8回連載コラム(第2話)



辻田 満

第8回目となる連載コラムは第4話シリーズにわたって「スクエアダンサーの道德教育」について書きます。第2話では「マナー」と「ルール」と「モラル」についてです。

2. 「マナー」と「ルール」と「モラル」について

スクエアダンス愛好者なら大多数の方々が遵守している「スクエアダンス十則」が「マナー」としてよく知られています。実はこれはアメリカにおいて思いやりと礼儀を基本とした最も大切な「ルール」として作られたものです。そして、この基本「ルール」(Ground Rules)は今なおスクエアダンスの楽しさを永続させる為最も基本的な「ルール」として全世界の愛好者に守られ続けられています。私達はこれら十則の意味を十分に理解した上で、これらを「マナー」としてではなく実は「ルール」であることを知った上で守って行くことが大切です。

あらためて「マナー」とは何か、「ルール」とは何かを考えてみる必要があります。言葉の上では「マナー」は礼儀・作法で、「ルール」は規則などの決まりごとではないでしょうか。アメリカで生まれたスクエアダンス十則は基本「ルール」(Ground Rules)として作られたものです。日本ではこれを「マナー」として愛好者が遵守していることは、とても素晴らしい事です。これからも引き続き日本のスクエアダンス界における、守らなければならない「ルール」の位置づけを、「マナー」すなわち礼儀・作法と心遣いの中で、広く愛好者に浸透するものにして行か

なければならないと考えています。

さて、「ルール」と「マナー」の間にもう一つ、「モラル」が存在する事を忘れてはなりません。「モラル」は、「ルール」と「マナー」を守る心ともいえるもので、倫理感、道德心といえるでしょう。私がS協理事であった2006年(平成18年)に、法人化に備えて会員のモラルを定める日本スクエアダンス協会倫理要綱の草稿の作成に携わりました。それから約10年が経過する中で、2015年(平成27年)その倫理要綱の解説文が改定されました。

改訂に当たっては幾つかの整理上の論点はありませんでしたが、最も私が重視したのは倫理要綱第4条の「私たちは個人の尊厳をお互いに尊重し合い、自分自身も高潔な人間であるように努めます。」と言う条文の解説文です。今回新たにこの第4条の解説文に『スクエアダンスは楽しくなければ、生涯スポーツ・レクリエーションとは呼べません。さらに、本人が親切な気持ちで行った行動や言動が、その意図がうまく伝わらず相手の尊厳を傷つけてしまうことがあります。このようなことがあっては、スクエアダンスの魅力はなくなります。「相手の立場で考える」ことによって、このような行為(ハラスメント)を無くすることが必要です。』が加筆されました。

私は、今回の解説文の改定を大変に重く受け止めています。愛好者の皆様もこの事を決して見過ごすことなく、この新しい解説の意義を深くお考え頂き全員が、この第4条を遵守すべく「モラル」の確立に努めて頂きたいと切に願っております。

このことは、単にスクエアダンスを楽しむ環境のみならず社会人としての自覚と態度で、愛好者自身の生活を導く基となると考えます。スクエアダンス界における「マナー」を考えると単なる礼儀・作法や心遣いではなく、立派な社会人として求められる人格形成につながる「モラル」そのものです。スクエアダンス界で末永く楽しむためには、「スクエアダンスが踊れることは、単なる必要条件であり、決して十分条件ではない」、それ以上に大切なものがあることを知らなければなりません。

(次号に続く)



辻田 満

第8回目となる連載コラムは第4話シリーズにわたって「スクエアダンサーの道徳教育」について書きます。第3話では「スクエアダンス十則」についてです。この「スクエアダンス十則」については何度となく連載コラムで取り上げて参りましたが、決して読み飛ばすことなく何度でも暗記できるまで読み込んで欲しいと願っています。それほどこの「スクエアダンス十則」は愛好者にとって必要不可欠なマナーでありルールなのです。

3. スクエアダンス十則

私達スクエアダンス界にはマナーをより具体的に表現した「スクエアダンス十則」があります。これはアメリカにおいて思いやりと礼儀を基本とした最も大切なルールとして作られたものです。そして、この基本ルール(Ground Rules)は今なおスクエアダンスの楽しさを永続させる為に最も基本的なルールとして全世界の愛好者に守られ続けられています。私達はこれら十則の意味を十分に理解した上で、これらをマナーとしてではなくルールとして守って行く認識が大切です。このスクエアダンス十則は初心者講習期間中に必ず講義に入れて頂きビギナーだけではなく毎年あらためて会員全員に聞いて頂きたい極めて重要な内容です。各クラブではこのスクエアダンス十則をどのように説明しているでしょうか。私は下記のように説明しています。

第1則 よく耳を傾けよ。(Be a good listener)

スクエアダンスは踊りの振付が決まっています。その都度コーラーのコールによって踊りが振付けが振付けられて行きます。したがって踊っている最中は常にコールに集中して耳を傾けておかなければなりません。踊りの最中にコーラー以外の方が踊りを解説したり補足したりする

とコールが聞き取れなくなりますのでこのような行為は厳禁とされています。

第2則 セットを早く作れ。(Get into squares quickly)

スクエアダンスの1チップはハッシュコールとシンギングコールで構成されております。両者で踊りに与えられる時間は僅か12分~15分程度です。音楽が掛りセットを作る場合は1セット4カップル8人のメンバーがそろわなければ他のセットがそろっていてもスクエアダンスをスタートすることができません。まだ4カップルそろわずセットが出来ていない場合は速やかに足りないカップル数を手で示してセットを早く作るようにしましょう。

第3則 礼儀正しくあれ。(Be a courteous dancer)

スクエアダンスは始めと終わりには常にパートナー、コーナーとの挨拶は欠かせません。礼に始まり礼に終わる礼儀正しいダンスです。笑顔でお互いにアイコンタクトを通じて礼をするこの行為は踊り自体をより豊かなものにしていきます。そして、最上の礼儀は常に感謝の気持ちを持つことです。

第4則 時間を守れ。(Be on time for class and club)

スクエアダンスは1セット8人がそろわなければダンスを始めることが出来ません。したがって踊りに参加するメンバーはできる限り決められて時間までに集合することが求められます。あと一人来ればセットが出来る場合でもその1人の方が遅刻することによって他の7人の方は踊りことが出来なくなってしまいます。もし遅刻もしくは欠席せざるを得ない場合は事前にその旨を連絡しておく必要があります。

第5則 考え深くあれ。(Be a thoughtful dancer)

スクエアダンスは常に大勢の方々と手と手を取り合って踊ります。したがって常に手は清潔に保つことが求められます。ダンスの前後はもちろん途中でも手を洗って清潔にしましょう。また、香水やオーデコロンなどは

できる限り控えましょう。もちろんアルコール類は特別なイベント以外は厳禁です。また、ダンスの始まる前の食事にもんにく類など口臭がするものは控えましょう。汗かきの方は下着が汗で不快感を与えていないかなど常にメンバーが気持ちよく踊る為にはどうすべきかを考えて下さい。

第6則 協力を惜しむな。(Be a cooperative dancer)

スクエアダンスは自分だけで楽しめるレクリエーションではありません。常に8人がお互いを楽しませるための責任を負っていることを忘れてはなりません。セットには必ずまだ経験の浅いダンサーが入っています。当然経験の浅いダンサーは踊るスピードや動作についていけずセットを壊すこともあります。その時に経験の浅いダンサーを押しやり・引っ張ったりしてはいけません。経験の浅い方と共に快く一緒に楽しんで行くための協力を惜しんではいけません。

第7則 ムリをするな。(Take it easy)

体調がすぐれないとき、あるいは疲れて休みたい時はムリをしないで踊りに加わらなくても構いません。ただし、誘われてお断りしたチップは踊ってはいけません。例会に来ても踊れない事情がある時は見ているだけでも勉強になりますのでセットに入らなくても構いません。つねにムリをしないことが大切です。

第8則 友情を深めよ。(Be a friendly dancer)

スクエアダンスは音楽に乗って踊る友情の踊りとまで言われる程「友情」を大切にするレクリエーションです。踊り自体と同じぐらいその友情のつながりが大きな楽しみになってきます。友情を長く保つためには常に「親しき仲にも礼儀あり」を忘れてはなりません。いつも同じ人を誘うのではなく可能な限り違った人を誘うようにして友情の輪を広げましょう。

第9則 常に学べ。(You're never through learning)

初心者講習会でのベーシックに始まりメインストリーム、プラスと様々なプログラムがあります。そしてそれらのプログラムにはスタンダードアプリケーション(比較的壊れにくい体型からの動作)やエクステンドアプリケーション(壊れやすい体型からの動作)やDBDなど特殊な踊り方があります。スクエアダンスは各ダンスプログラムでこれらが踊れるようになるためには常に学ぶ姿勢と努力が求められる奥の深いレクリエーションです。

第10則 ほほえみをもて。(Enjoy yourself - have fun)

スクエアダンスを楽しく踊るためにはコールを正確に踊るだけでは成立しません。そこにはあなたのほほえみが不可欠です。あなたのほほえみがいかに全体のダンスを楽しいものにするかを知ることが知って下さい。

(次号に続く)

第8回連載コラム(第4話)



辻田 満

第8回目となる連載コラムは第4話シリーズにわたってスクエアダンサーの道德教育「」について書きます。第4話では「マナー以前の大切なこと」についてです。第4話で第8回連載コラムは終了です。

4. マナー以前の大切なこと

越谷 SDC ではマナー以前の大切なこととして「会の和を乱す行為」を厳しく禁じています。これは規約第6条第2項に規定されています。「会の和を乱す行為」とは具体的には①～⑨の事柄です。

①. 職業の話をしてしない。

スクエアダンス愛好者は様々な職業の方がおります。会の中で仕事の話をしたり営業行為をしてはいけません。

②. 宗教の話をしてしない。

宗教には仏教・キリスト教・イスラム教・神教・や新興宗教など様々です。いかなる宗教であってもその宗教を会の中に持ち込んではいけません。また、どのような宗教の方であっても排他的な態度を取ってはいけません。

③. 政治の話をしてしない。

ご自分が支持する政党がどのような政党であっても会の中に政治の話や選挙の話をしてはいけません。

④. 噂話(中傷・誹謗)をしてしない。

噂話(中傷・誹謗)は最も慎まなければならない行為です。

⑤. ハラスメントの禁止

ハラスメントとは具体的には・精神的な行為(暴言、叱責、人格否定)・身体的な行為(頭をこづく強く押す引っ張る、尊厳を傷つける)・人間関係(無視・仲間外れ)・個の侵害などです。

- ⑥. 特定のグループが勝手な行動をしない。
仲良しグループを作り勝手な行動をとってはいけません。ただし、同期や所属部での懇親や行動はこれには該当しません。
- ⑦. 外部の活動をクラブ内に持ち込んではいけない。会の外でやっている活動を会の中に持ち込んで誘い合ったり、会の中で打ち合わせをしたりしてはいけません。
- ⑧. クラブ内の事を外部に持ち出してはいけない。会の中の出来事を外部で話したり広めたりしてはいけません。
- ⑨. 会員のプライベートな事には触れてはいけない。個人の家族や家庭の出来事に触れてはいけません。

以上挙げた9項目に関する「マナー以前の大切なこと」が会の中で起こった場合はその出来事を速みやかに会員の全員に知らしめて解決していくことが必要です。けして、一部の役員だけで解決を図ってはいけません。

スクエアダンスは楽しくなければもはやスクエアダンスではありません。スクエアダンスを楽しく踊り続けるために「マナー以前の大切なこと」皆で守る姿勢さえあれば十分です。本人が「そんなつもりではなかった」と思って行った行動や言動が相手の尊厳を傷つけてしまうことがあります。このようなことがあってはスクエアダンスは楽しくありません。例会活動に留まらず例会外でも見過ごすことなく皆さんで楽しいスクエアダンスを続けて行くためには「マナー以前の大切なこと」をお互いに厳守しましょう!

5. おわりに

最後に「スクエアダンサーとしての人格形成」はけしてご自分が末永くレクリエーションとしてスクエアダンスをお楽しみ頂くだけのものではなく、惹いては「類は友を呼ぶ」と言うようにスクエアダンスの経験は浅くとも社会で多くの経験を積んできた素晴らしい方々がルールやマナーがしっかりとしたクラブに所属することに大いに居心地の良さを感じてまた新たに友達を誘う行動につなげて頂ける。すなわち、私たちのスクエアダンス活動に求められている「普及活動」に対して大きなエネルギーを与

えるものであることを「スクエアダンサーの道德教育」の最大の意義であることを申し上げておきたいと思っています。

(第 8 回連載コラムはこれで終了です)